月刊 西村くにこ
県政報告
NO. 52
発行日：令和6年（2024年）9月10日　通算第52号

ご意見、ご感想をお聞かせください。
電　話：045−210−7630　ＦＡＸ：045−210−8912
メール：925@nishimura-kuniko.com
発行者：西村くにこ
連絡先：横浜市中区日本大通り１番地



［プロフィール］2011 年神奈川県議会（川崎区）に初当選。現在、４期目。防災警察常任委員会／予算委員会／公明党神奈川県議団副団長／社会福祉法人川崎いのちの電話評議員／防災士／骨髄バンクドナー登録説明員／認知症サポーターキャラバンメイト／こころサポーター（メンタルヘルス普及促進）／心のバリアフリー推進員（障害者理解促進）／保護司

ひとりひとりの声を結実し 安心して暮らせる神奈川へ

西村くにこは、日々の活動の中で様々なお声を頂戴します。そのような声から、調査をし、政策を考え、ひとつひとつ地道に実現に向けて取り組んでいます。２０２４年の前半を振り返り、西村くにこが取り組んできた政策の進捗状況や実現したことについて、ご報告いたします。



代表質問に登壇する西村くにこ

防災警察常任委員会での質疑より 大規模災害時のトイレ問題について

本年１月に発災した能登半島地震では、断水の長期化により、避難所や公共施設のみならず、自宅のトイレも使えなくなるといった深刻な「トイレ問題」が発生しました。災害はいつどこで起きるかわかりません。神奈川県で大規模災害が起きた場合、能登半島地震を超える避難者が発生し、さらに厳しい状況に置かれることが想定されます。西村くにこは、防災警察常任委員会で、「県の災害時のトイレ対策」について質疑しました。

在宅避難をサポート

都市部では、集合住宅に住む方も多く、耐震性が優れた住宅では、在宅避難を選択する方も多いと考えられます。県では令和５年度にトイレプロジェクトを立ち上げ、約１００万回分の携帯トイレを購入したほか、令和６年度の当初予算には約３５万回分の追加備蓄の予算を計上しました。それでもまだ、１０００万回分不足しています。行政だけでなく個人での対応が重要です。各ご家庭での備蓄をお勧めします。



緊急時の携帯トイレや簡易トイレは100均ショップでも販売されています。

命を守るトイレ対策

一方、避難所のトイレ環境の改善は「災害関連死」を防ぐために不可欠な取り組みです。通常、避難所に設置される仮設トイレは、多くの方が使用する上、明かりもなく「臭い・汚い・暗い」と劣悪な環境となります。トイレの回数を減らすため、水分や食事を控えて、脱水症やエコノミークラス症候群を引き起こすなど、健康リスクが大きく高まります。西村くにこは県に対し、能登半島でも活躍した「トイレカー」の導入を提案しました。



トイレカーの導入を

トイレカーは仮設トイレと車両を一体化したもので、設置・給水・後処理が簡単。自走式なので現地到着後すぐに使え、いったん設置した後も好きな場所に移動できます。キャンピングカーのような外見で、内部は明るい個室、トイレは水洗です。西村くにこは、県が新たな地震防災戦略の策定を進めるなかで、「ストレスのない避難環境を確保する対策等を検討」としていることから、総務省消防庁の「緊急防災・減災事業債」を活用し、トイレカーを県として導入するとともに、市町村に対しても導入を働きかけるなど、大規模災害に備え９２０万県民の命を守る施策の推進を要望しました。県は前向きに検討すると答えています。



避難所のトイレ環境の改善に、トイレカーの導入を県に求めました。